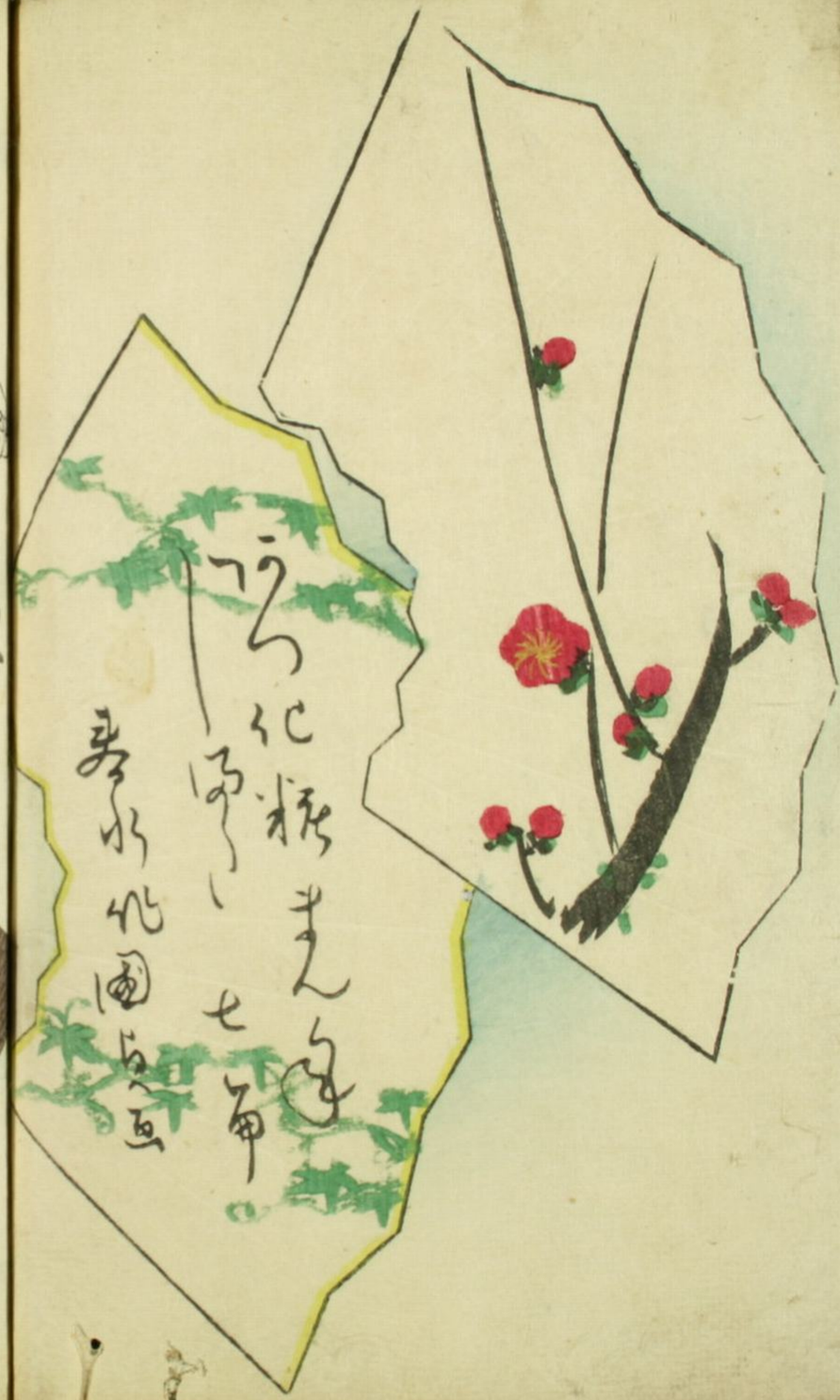
厚化粧茅屋図

七冊
八冊

七編上



A392
4

KB-7630

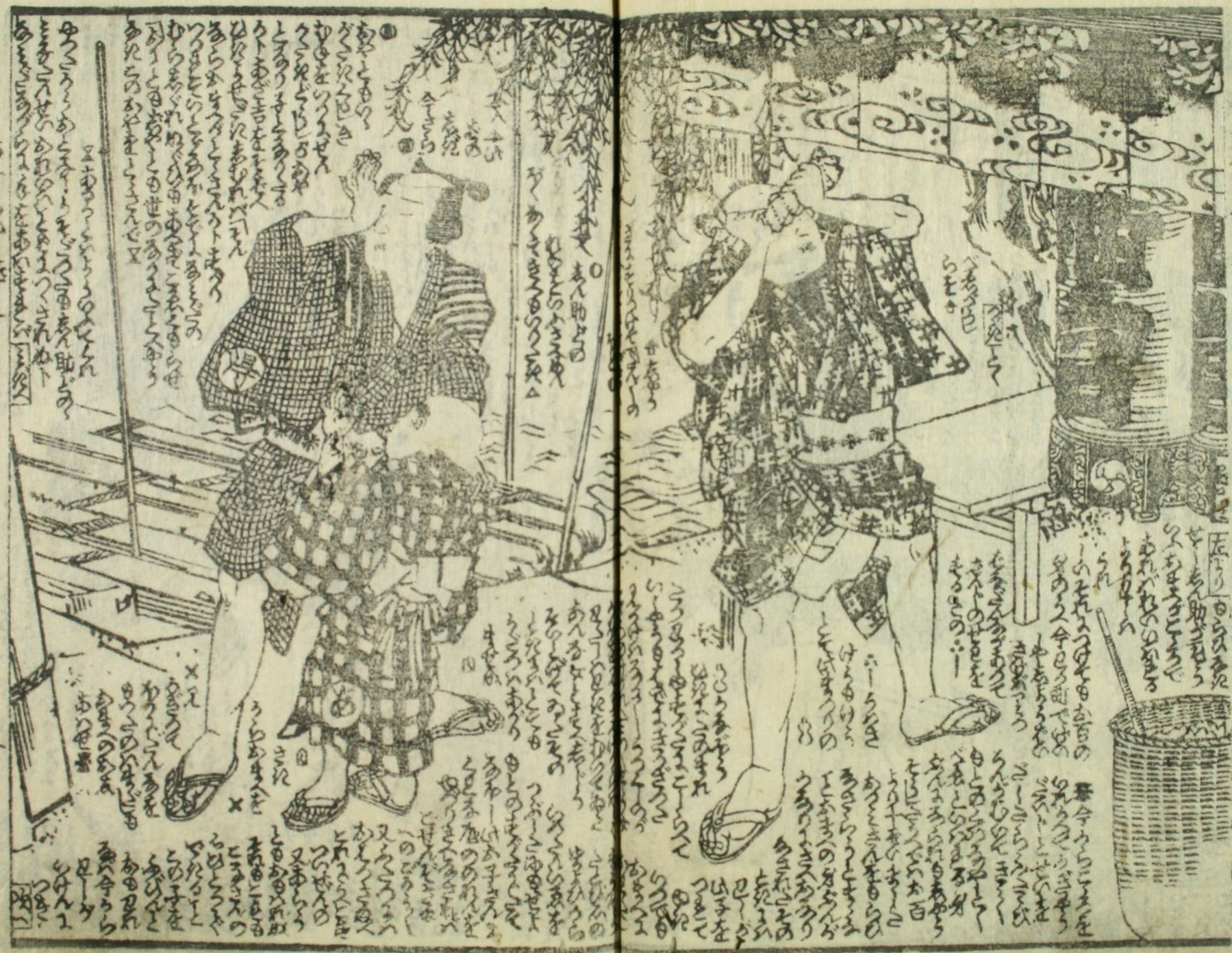
戯場でも時代物へ。實がありて面白し。然るとても幕毎に義太夫が這入りて泣せられて。又看官ふ疎まるべし。仍て二番目狂言ゆへ。尋くゝ世話場を見まる支。這も又作者の腹ゐゝ。草双紙迚も是ふ存じ〳〵。世話と時代を一場づゝ間てこまを綴る式にて目先の替る支もなのまど。本傳阿百が人を編よ。世話ふ落さで扱いざる。條のゝ續よるゝ。浮世めいてふ見べけまども。怜らの薄き物語と又ふ替りと七編と筆ふ盛付置く支ものり

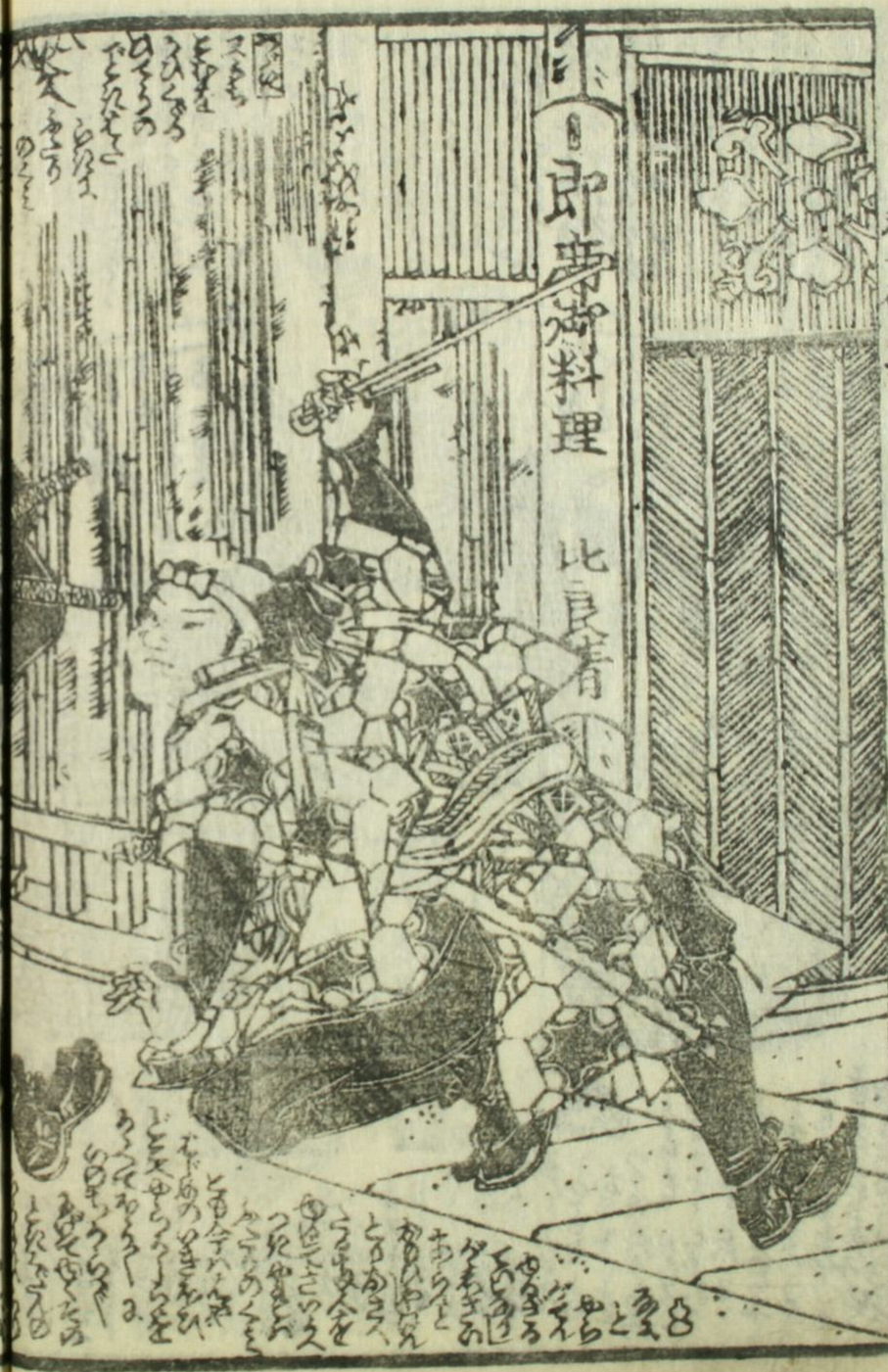
庚午孟春吉旦

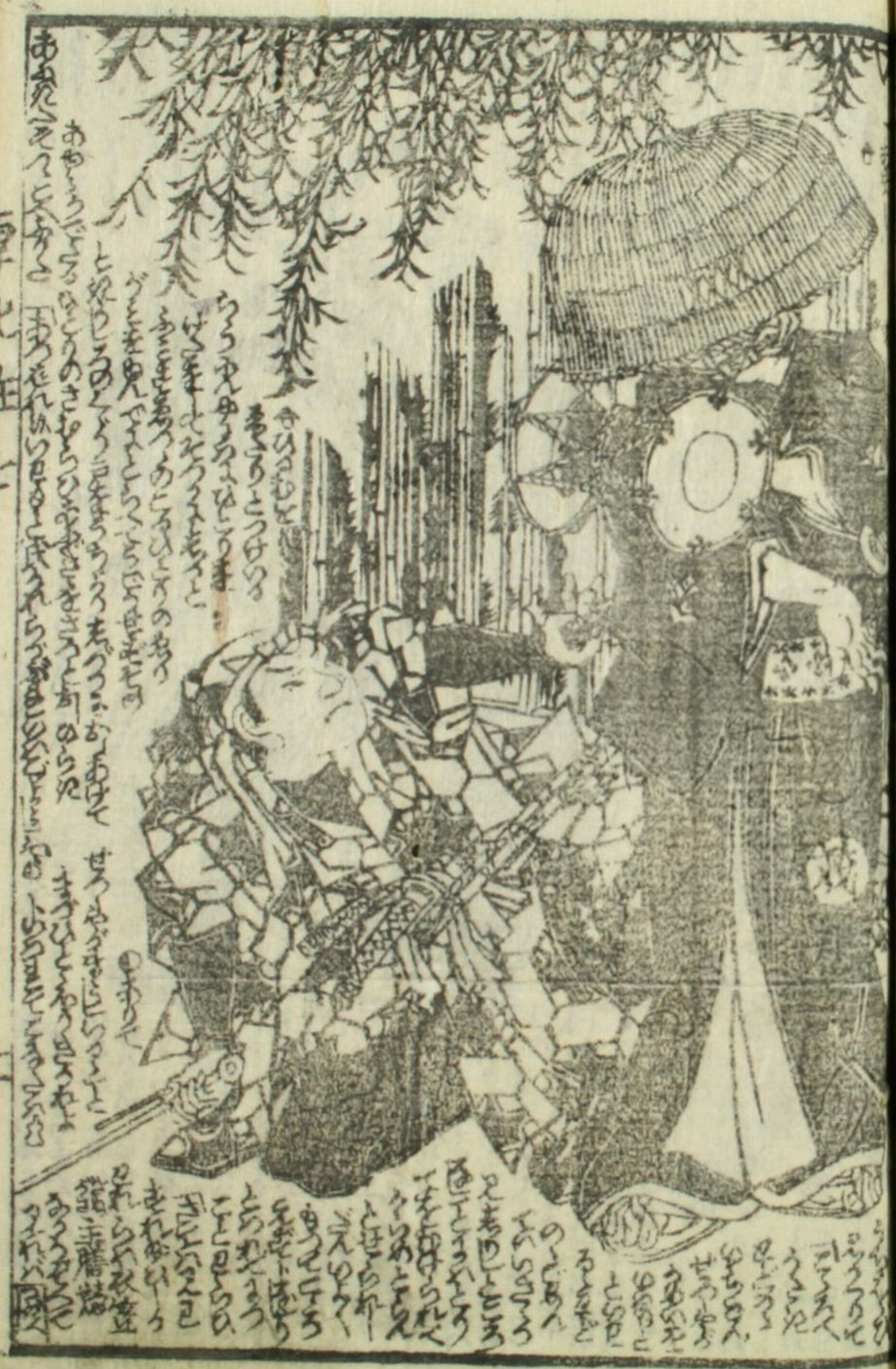
爲永春水記

盗賊の首領
荒井彦四郎
衣笠主膳の子息
同苗
求馬
草賊
太郎
飛脚

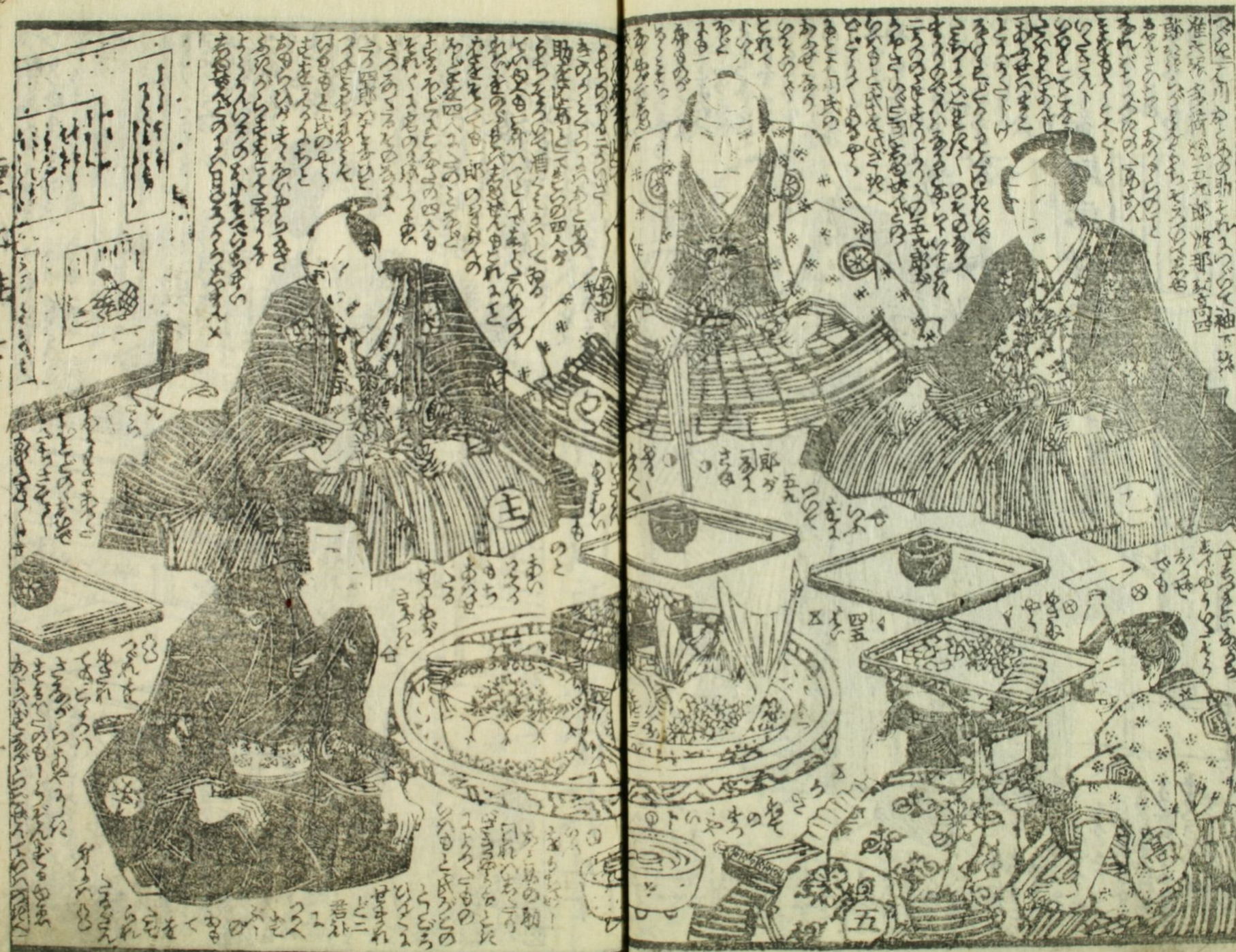
茂一郎
総角結早苗




即席御料理
北良清



即席御料理　比良清



國貞画　春水作

實母散

さんすけさんど　十軒店博多町東側
トトんちゃちゃ　千葉堂孝神製
一四ウ五ツ

柳蔭月朝妻　式舞道　出板　山々亭有人作　梅朝樓國貞画

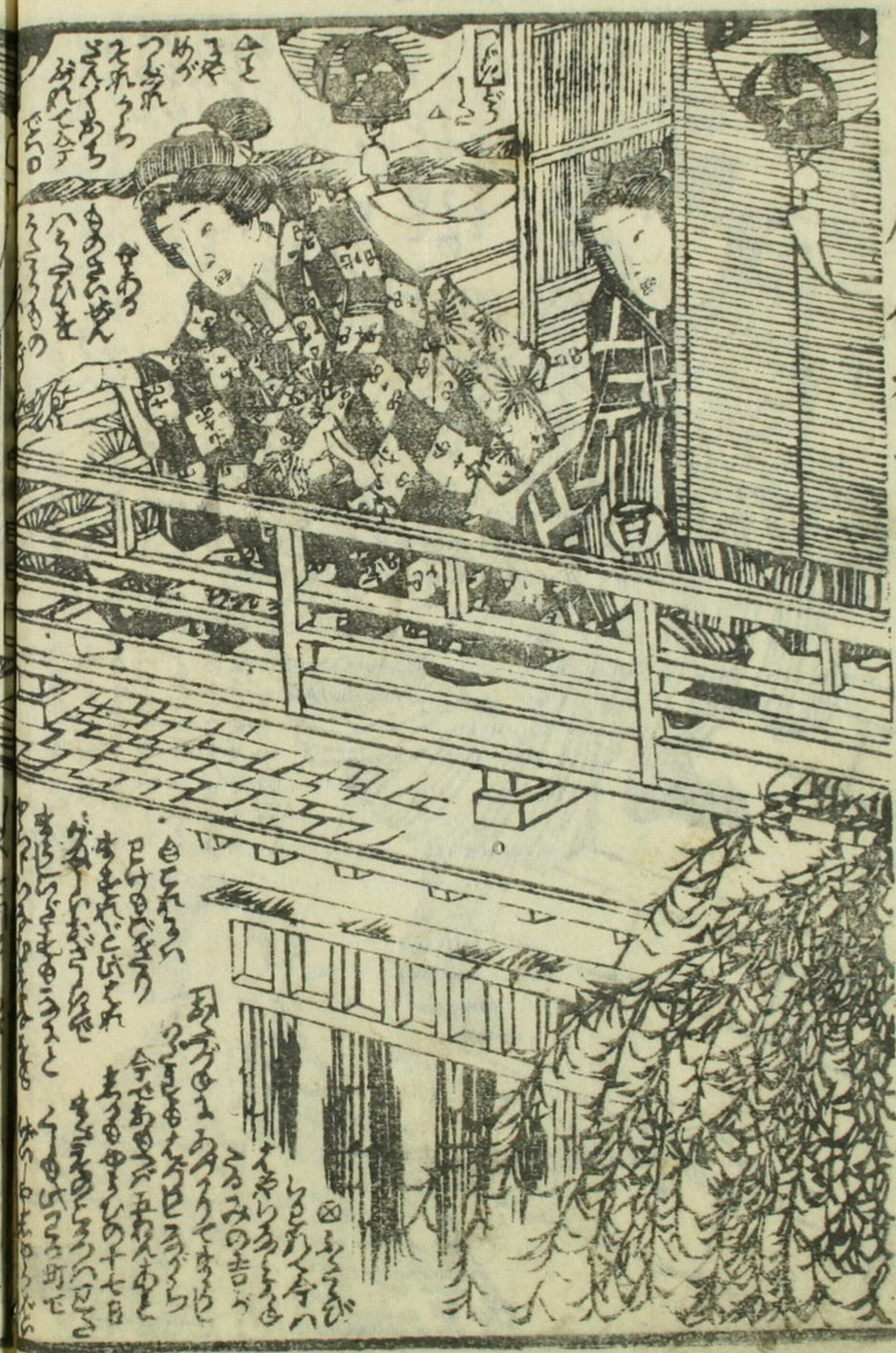
藝黄鶯八幡不知　五編道　出板　山々亭有人作　鶴朝樓芳幸画

阿玉ヶ池櫛月形　初編　出板　山々亭有人作　陽斎豊国画

地本錦繪團扇問屋　絵草堂　蔦吉

三

子年
高田



這面ハ己之吉ら
寸ぶんら成摸も

明治七年甲戌陽春開板標目

厚化粧萬年嶋 八編 春水作 九編 十編 國貞画

新局九尾傳 十一 春水作 出板 國貞画

室町源氏胡蝶卷 廿三 種彦作 出板 國貞画

筆海四國聞書 十二 種彦作 出板 國貞画

鼠祠通夜譚 八編 種彦作 出板 國貞画

明鴉墨画廻補檀 十一 種彦作 出板 國貞画

童謡妙々車 二十九 種彦作 出板 國貞画

花封蓉玉章 十編 種彦作 出板 國貞画

薄倉幼日記 廿迫 春水作 出板 國貞画

八犬傳犬の双紙 五迫 春水作 出板 國政画

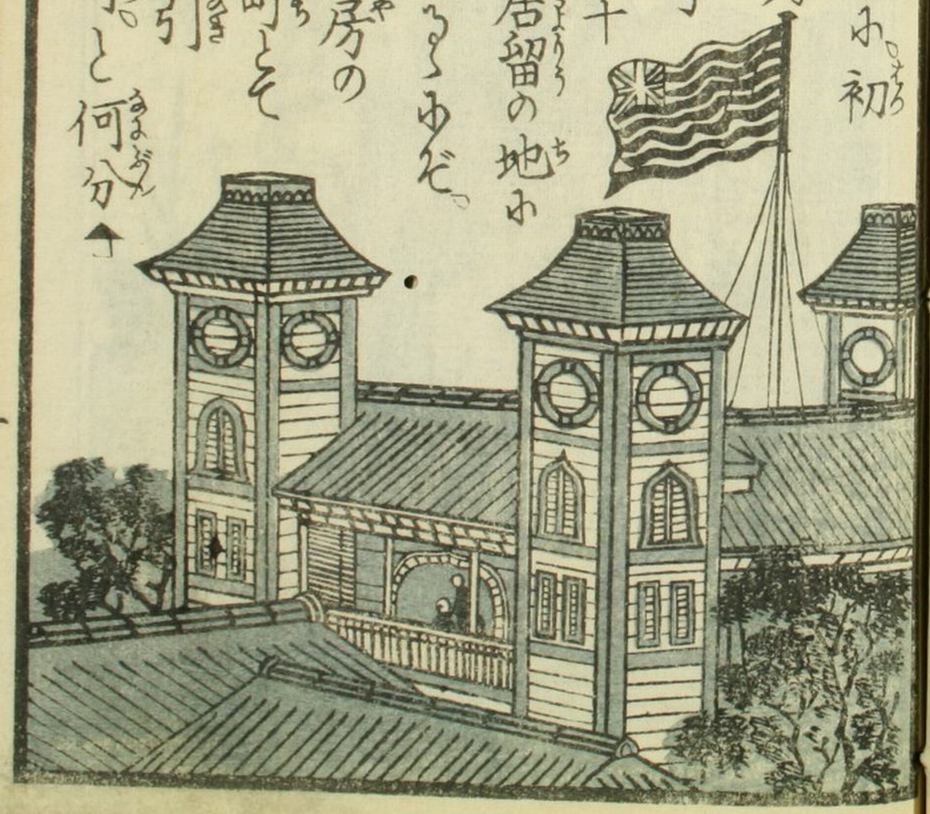
七焼き葛飾譚 十迫 種彦作 出板 國貞画

南傳長明壹冊

蔦屋吉藏板

厚化粧
美年
写四

いのる春此万年嶋田ゆ。初元結をむすびくゝまり。綴り合せるいろは文字ゆ因やありけん這冬ハ四十七字の神奈川なる異人居留の地ゆ遊び。次編の草稿後るゝゆゑ。馬車で乗来る書房の口上他の用ゲ太田町とそ辨天小路べんくゝと。引ぱくるよ〜田町。と何分↑



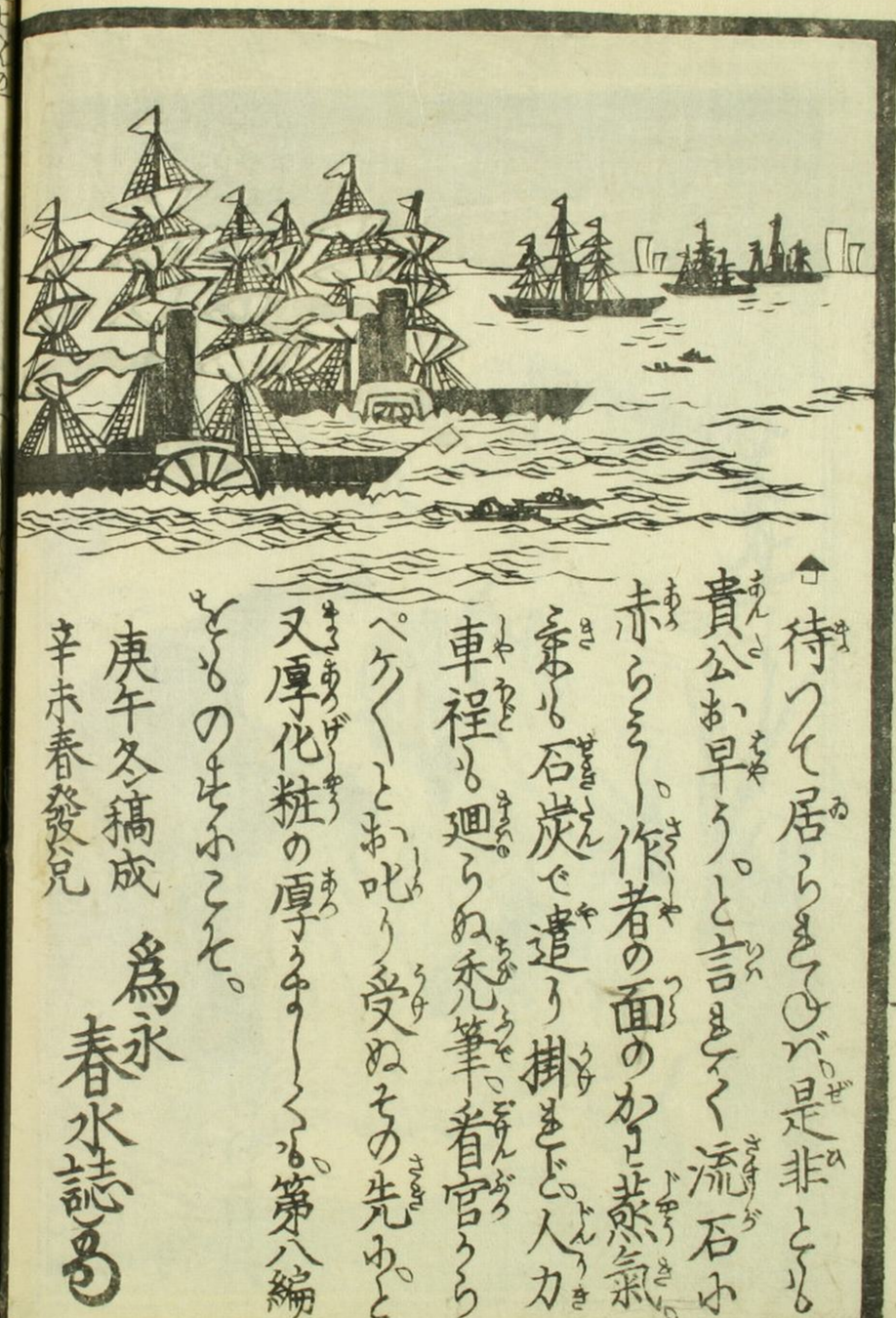
厚化粧

なるゝ
つゝ
ゝ
ふ
ふ
ゝ
ゝ
上

あ安

毒婦阿百

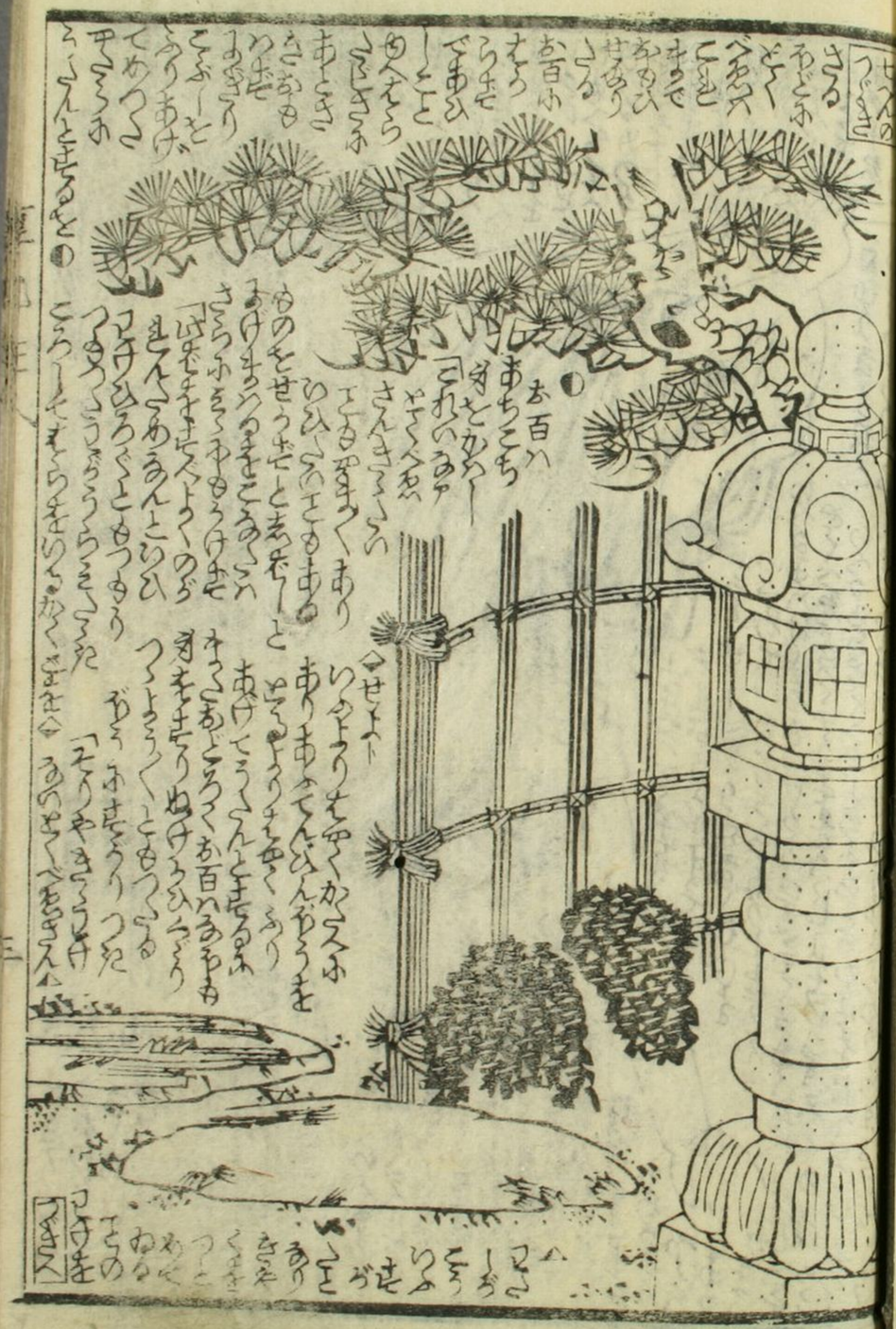
名屋得兵衛



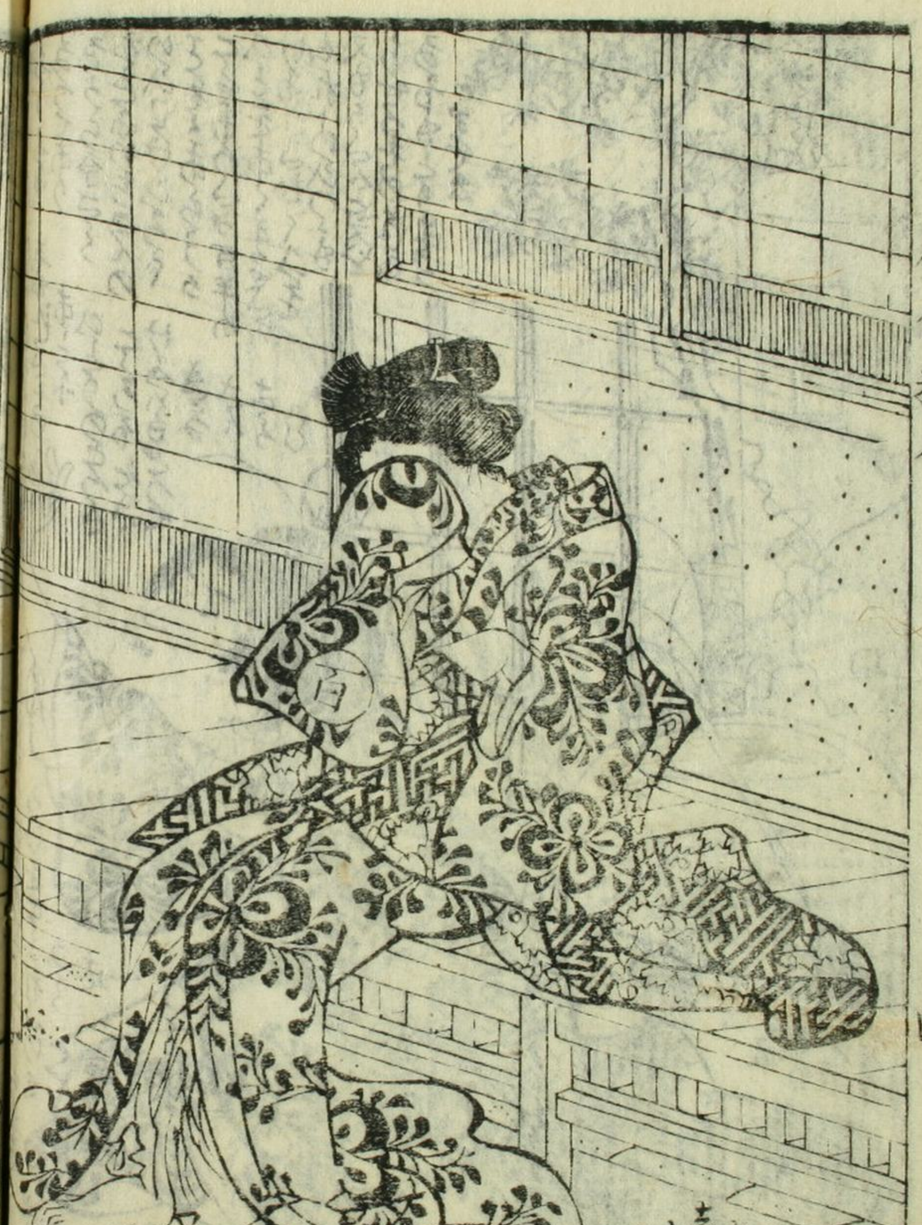
待つて居らまつべ。是非とも貴公お早う。と言まく流石ゆ赤らさま。作者の面のかゝ蒸氣。車徑も廻らぬ禿筆。省官うらぺケくとお叱り受ぬその先ゆと又厚化粧の厚うまま。第八編をものせふこそ。

庚午冬稿成　爲永春水誌

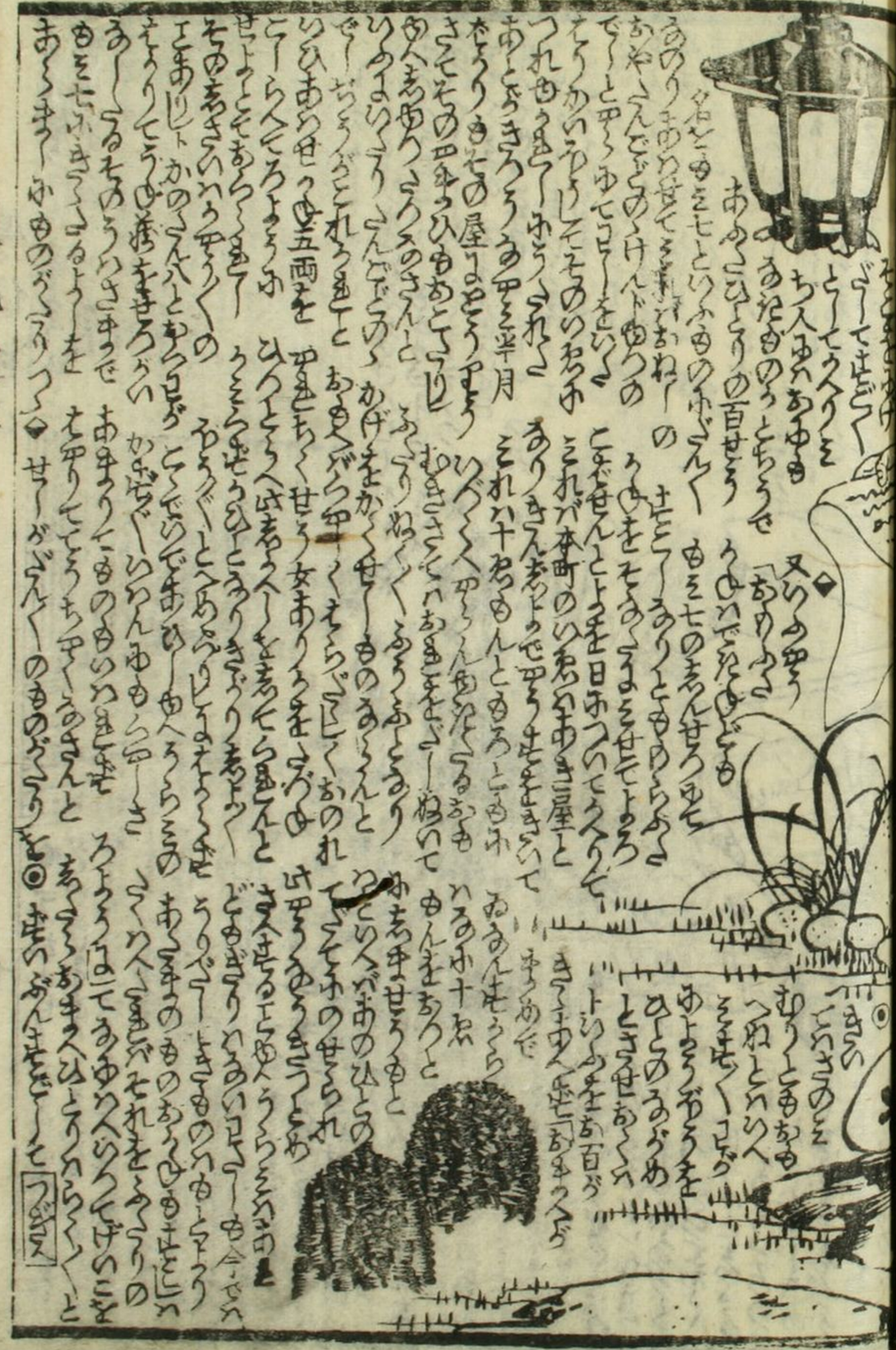
辛未春發兌



得


百

百
乙



歌川代女

永家
實母散
さんぜんさんじ　中編南傳馬町東側
ふしんちのみち　千葉堂孝輔製
一切のめ　茶

柳蔭月朝妻　六編迫　山々亭有人作
出板　梅朝樓國貞画

藪黄鸝八幡不知　五編迫　山々亭有人作
出板　錦朝樓芳虎画

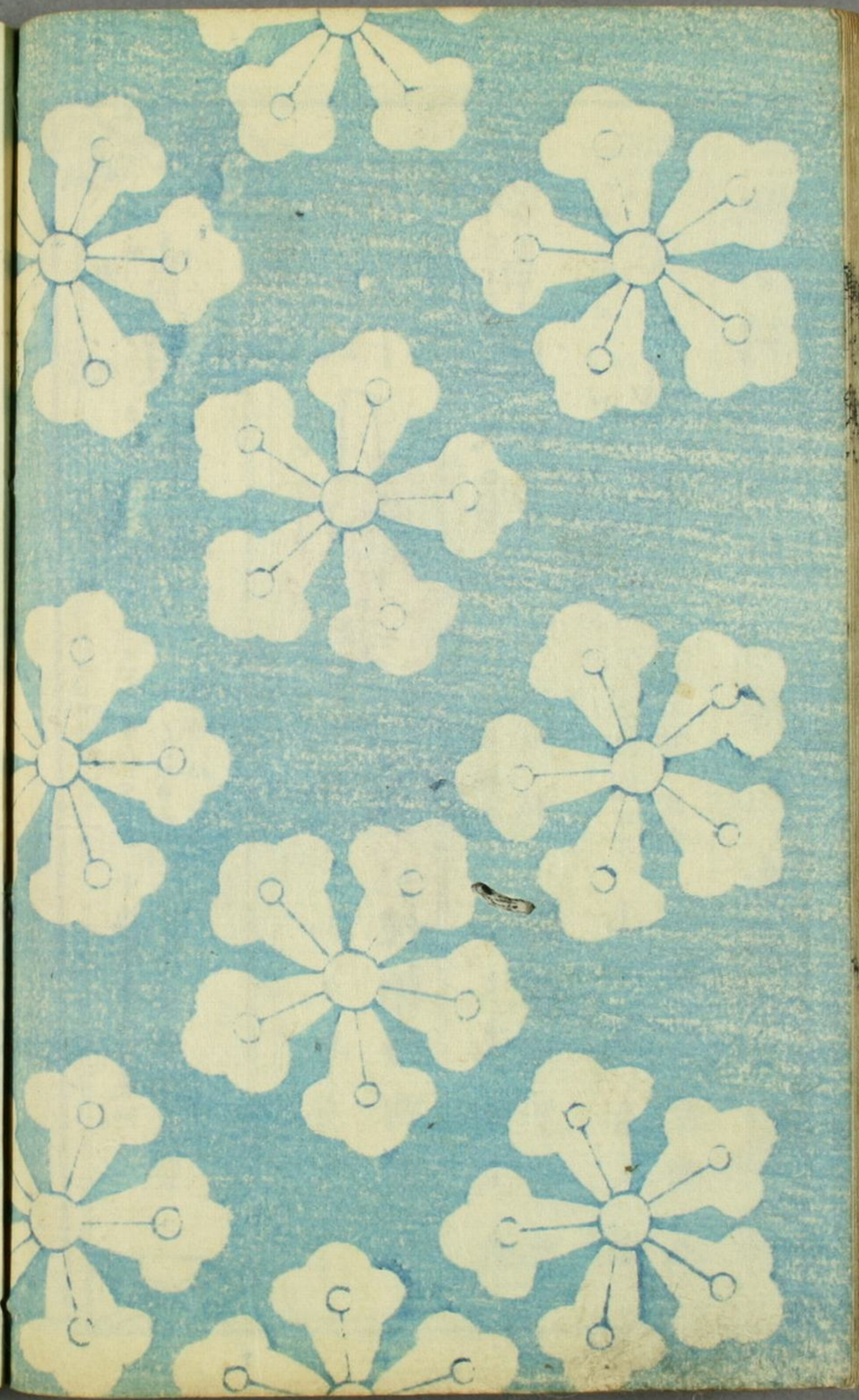
阿玉ヶ池櫛月形　初編より　山々亭有人作
追々出板　陽斎豊國画

地本綿繪團扇問屋　紅英堂　蔦吉

春姿

國貞画

八篇下



三
熊
厚化粧

みち奉
綿田

つづき
ふ
さけられ
浮
世
風
呂
白
越

熊

百
越

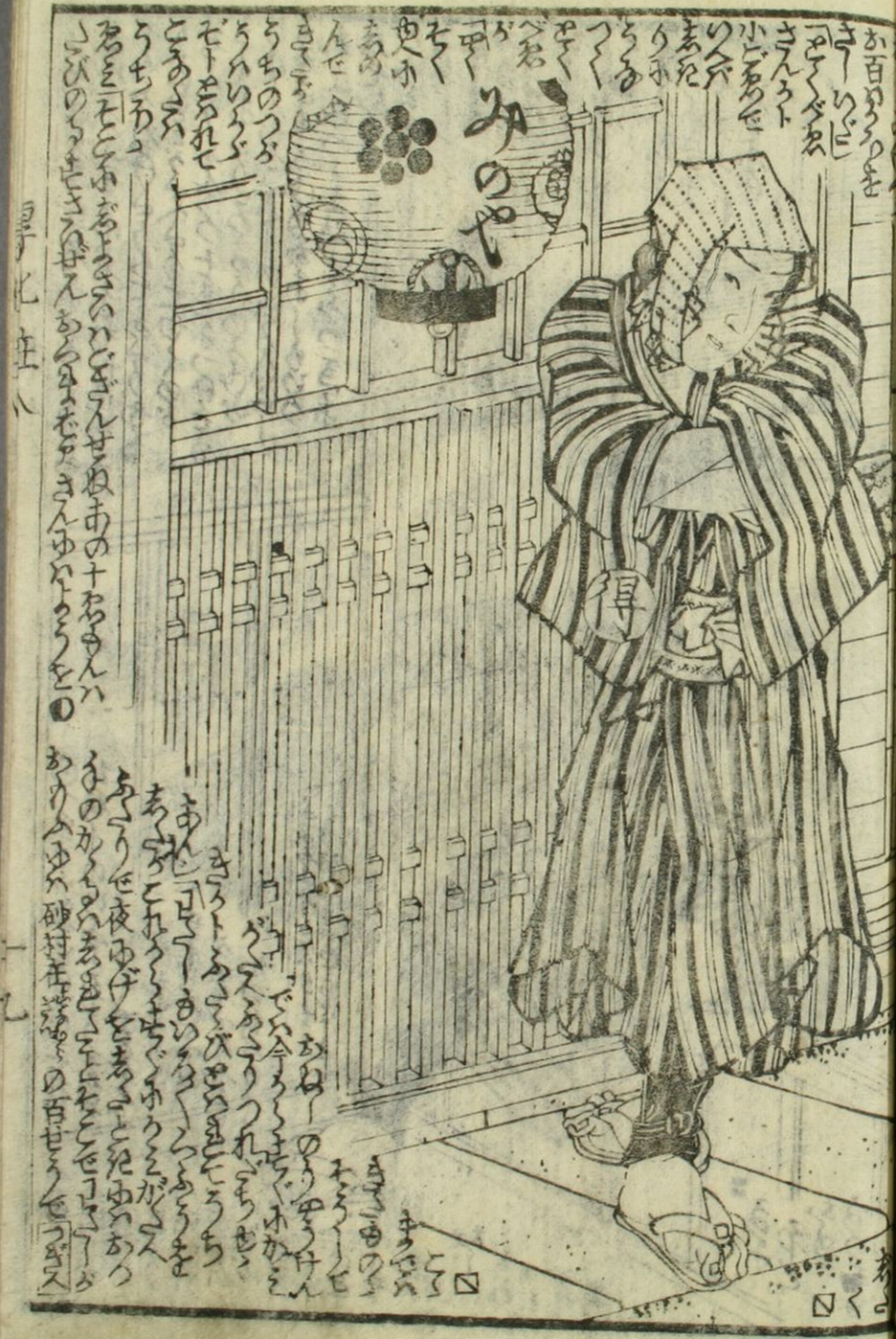
熊
み

銭

銭

百
越

用水


みのや

得
百

010190518251

明治七年甲戌陽春開板標目

厚化粧萬年嶋田 八編 春水作 国貞画

室町源氏胡蝶卷 廿三 種彦作 国貞画

新局九尾傳 十三 春水作 出板 国貞画

鼠祠通夜譚 八編 種彦作 出板 国貞画

筆海四國聞書 十二 種彦作 出板 国貞画

童謡妙々車 二十九 種彦作 出板 国貞画

明鴉墨画繻襠 十九 種彦作 出板 国貞画

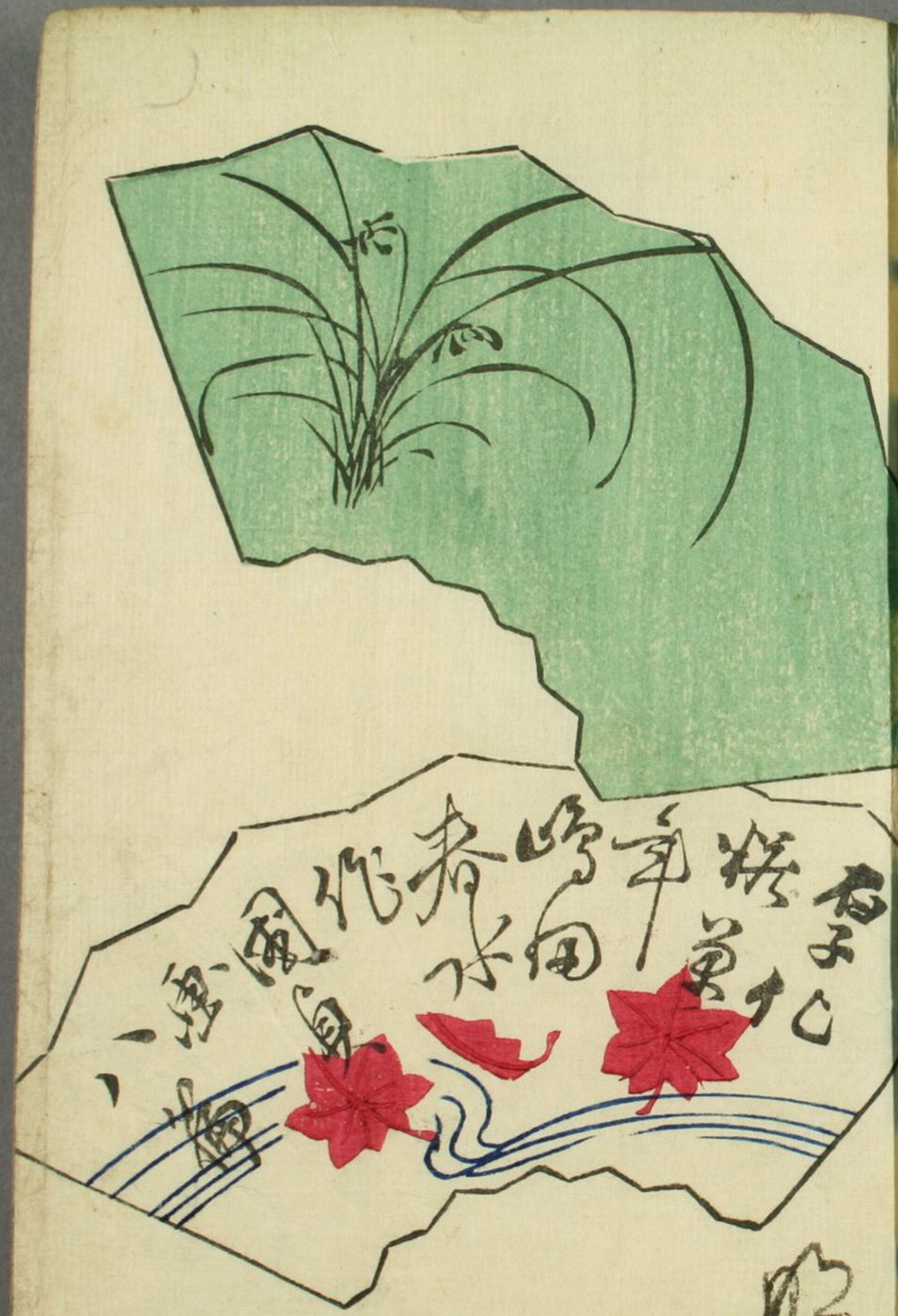
花封落玉章 十編 種彦作 大屋 国貞画

薄倭幼日記 廿近 春水作 出板 国貞画

八犬傳犬の双紙 五十九 柳亭作 出板 国政画

七姿葛飾譚 十近 種彦作 出板 国貞画

南傳馬町壹丁目 蔦屋吉藏板


一遠国作春嶋車桜
二梅月水面菓九
四